
とおりやんせ

みるく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とおりやんせ

【Zコード】

Z2220BA

【作者名】

みるく

【あらすじ】

見境空は目覚めると不思議な場所にいた、真っ白で何もない世界。そこは死後の世界だという。自分が死んだ理由がまったく分からなくなっていたときに1人の少女が現れた。その子は生前仲良くしていた子にそっくりで……。

プロローグ

「来ないでえ…………！」

1人の少女が階段をかけおりながら叫んだ。めざしているのは屋上。

後ろからは1人の人間が追いかけて来ている。性別は不明。

「ま、待つて！！！」

人間は少女を必死に追いかけた。少女は必死に逃げた。

屋上に出るともう夕方あたりは暗かつた。

「待つてくれ！！アレは違うんだ！！」

人間は泣きながら叫んだが、少女には届かない。

「もう・・・信用できない・・・。」

少女は人間の持っている血のついた包丁を見ながら言った。

人間は包丁を隠したとき・・・

「…………！」

少女は飛び降りたのであった。

「あ、あれ？？」
「？」

目が覚めるとそこは不思議な場所にいた、真っ白で景色も壁も何もない場所。

だけどここになると心が安らぐような気がした。

「私・・・確か昨日・・・えっと、あれ？覚えてないや！？」

昨日の記憶がまったく出てこなかつた。

それ以外は！？私は必死に普段使わない脳をフル回転させて考えた。

ところどころの記憶が抜けているが昨日の記憶以外は出ってきた。

親友の春花や真里菜、大好きな忍、腐れ縁の葵やもも。仲良くみんなで道草したり、遊園地で遊んだこと。

「何で・・・昨日だけ・・・。」

わけが分からなかつた。記憶喪失なら全て忘れているはず。なのにところどころって・・・。

私は不安になつたので出口を探し始めた。

「な・・・なんなの、ここは！？」

この世の場所ではないことは分かつた。

空間なのは分かるけど、宇宙のような感じだ、星のよつてものなど

はないけど。

出口も入り口もない、恐ろしい場所。

そもそも、何でこんな場所にいるわけ！？？
昨日の記憶がないためまったく分からぬ、…………怖い…………。

「あれ？？[空]死ひやんじゃない…！」

後ろから声がしたので振り向くとそこには知らない女の子が立っていた。

「誰？」
「知らない？」

顔をじつくりとよく見た。

そういうえば、真里菜に少し似てるかも。。。でも、真里菜よりは若いな。

「し、しらない。」
「そつか～、私、あなたに会つ前に死んじゃったもんね。」
女の子は笑顔で言った。
「え・・？し、死んだ・・？」

女の子は意味不明なことを言い続けた。

「たしか、私は交通事故で死んだんだっけ？トラックだつたな。」

「…言っていることが意味不明なんだけど。」

私は怒り気味で言った。

わけが分からぬんですけど、なに？死んだ？あなたはここで生きてるじゃないの…！」

「そつか…・・・氣づいてないんだ・・・。」

「え？」

「あなたは死んだんだよ？分からぬ？」

女の子はあざ笑うかのように言った。

「は・・・？」

言つていふことがまつたく分からぬんですけど。

私・・生きてますよ？

私は自分の手を心臓にあてた。

「な…！」

心臓は動いていなかつた。

「やつと、氣づいた？」

私・・・死んだの・・？

嘘だうそだ・・・・・嘘だ嘘だ嘘だ嘘だ…！」

1

私はまだ14歳だよ！？？？？

何で！？何でなのよー！！！

夢たよね？？たれか・・・・・たれか・・・・・

! ! ! !

私はのどが切れるんじゃないかといつくりいの声で叫んだ。

「夢だよ。

・・・・・ そういえたら私も嬉しいんだけどね。
』

「・・・・・ひつ・・ひつ・・ひつ・・・・・」

私は涙が止まらなかつた。

何で、死んだの？私は自殺するよつた子ではない…
じゃあ…他殺か事故…。

「『いつとくけど…過去に戻れるよ。』

「え？」

女の子は不思議なことを言つた。

「本当に…？？」

私は嬉しさがこみ上げてきた。

よかつた、これで生き返つてまたみんなに会える…そう思ったの
だが…。

「だけど、タイムスリップと同じ。みんなが死ぬ過去を変えるだけ。」

「それでいい…！あ…早く…！」

私は女のこの方をつかんでいった。
早く、過去に戻りたい！！！！

「だけど…あなたの過去はけられない。」

「え…？」

女の子は切ない瞳で私を見た。

「…………そんな…………」

・・つて待てよ？『みんな』？みんなつて誰？

「…………あなたが死んだ後、あなたの周りの人はだいたい死んだ……
・。」

「な、何で！？？」

どうして？私は必死に頭を動かした、だけど・・わからない。

「過去に行つて確かめてきたら？」

「…………。」

私は考えたが答えは一つだけ。

真実を知りたい！！！！！！

「わたし・・いく！」

「分かつた。じゃあ、行きましょう。」

黒い光が私たちを包んでくれた。

私は何で死んだのか……。

みんなは何で死んだのか・・・。
何があつたのか・・・。

そして・・この子は誰なのか・・・。
全てを知りたい！どんな真実でもいい！

これが2回目の始まりだった・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2220ba/>

とおりやんせ

2012年1月5日18時05分発行